

先づ歴史を讀め

社長 オブスター 星

一

元朝や神代 のことも思はるゝとかいふ句がある、其解釋は茲に詮鑿の限りではないが、元朝は四邊も靜かにしんとして、氣は澄み心は靜かに、自から自分の過去のことや、又遠く神代のことまで床しく思はれる。殊に今年などは五年振りに世界平和の裡に新年を迎へることなので格別な感懷も湧くといふものだ。その

格別な感懷 といふものは講和の結果凭らぬ風、世界の情勢が變つて行くかとか、我が日本はどういふ地位に進むであらうかとか、又自分はどういふ風に平和の世界に立てばよからうかとか人さまざまの感傷が浮ぶに違ひない。斯ういふ問題を解決して、

自己の進路 を定め様とするに歴史を讀むに如くはない。新年に於て歴史を讀むことは、常に神代のことを知り、今日の日本を知り、今日の世界を知る手段であるのみならず、併せて又將來の日本將來の世界を察する活資料であつ

て、これによつて一年の謀も十年の謀も立派に立て得られるのである。蓋し歴史なるものは、吾々の日誌が吾々の生活を語るやうに吾々人類の生活を偽りなく語るものである。之を單に過去の語死んだ文字として讀めば、興つたとか亡んだとか勝つたとか敗けたとかいふ事實を並べたものとして見えない、然し今少し注意して所謂心眼なるもので讀むと、一脈の血管縷々として頁の裏を流れ、人間の生活といふものを歴々と目のあたりに見ることが出来る。

自由思想の旺盛

法學士 水越 致和

歐洲の大戦は軍國主義と平和主義の争ひより謂はれず自由思想、民本思想の旺盛を促し、爲めに露西亞大帝国は崩壊し、獨逸聯邦も分裂するの現象を呈するに至つた。此等の現象は戦争前又は戦争中に於ては何人も想像し得ざりし所であつた、殊に北米合衆國がウイリソン大統領に依つて平和主義、人道主義を實行し、

嗚呼、是れ、國といふものを舞臺とした天地人生の大芝居を見るが如くである。形容するに足ない雄大美術を形容するに足ない不律の大經卷に接するが如くである。形容するに足らない。英雄や佳人、明君や忠臣、暗主や奸臣、夫等を按配して政治經濟、風俗産業等の變遷を示し、而して其の興るべきに興り、亡ぶべきに亡ぶところの巧妙なる脚色は、之を造化の大傑作たる脚本と云はないで何と云はふ。而かも其裡面には森嚴な

知り時勢を知らうとするには歴史を讀むのが捷徑だ。歴史は實に人間學の經典である。獨逸が敗けた原因は種々あるが英國の歴史を知らずして戦端を開いたことが抑々敗因の一である。自分を知り、他を知り、過去を知り、現在を知り推して將來を知るといふことは極めて必要なことであつて、これは歴史を讀んで始めて知り得る知識である。政治、經濟、軍事教育、宗教、交通、其の他思想や感傷までも凡て世界の直接影響を受けるやうになつた今日では、何人も先づ歴史を讀んで日本の國體を知り世界の情勢を察し、而して後一年の謀

主要なる交 戰國となるに至るべしとは夢想だもしなかつた所である。然しながら近世の産業革命後の状態は、各國何れも社會組織に不完全なる所あり、其の分配制度は頗る不平均なる所多かつたのであるから、之より生ずる恐慌の如何に重大にして戦慄すべきものであることを唱へて居つた學者も、尠くないのである。世界の戦亂は實にこれが導火線を爲し多数民の暴起を促すに至つたのであつて、其の從來專制主義に依

つて政治を行へる國々に於て殊に然るを見るのである。思ふに此の自由思想並に、民本思想は將來益々旺盛を極め、社會制度、經濟、財政、政即ち生産分配負擔等各種の方面に亘りて民本的改良を加へらるゝに至るであらう。此等の傾向に反對するか、若くは相反するものがあるときは、其の政治家たる資本家たることを問はず多数民の敵たることを覚悟しなければならぬ。曾つて英國の昔時

不王様があつたが、彼は其勢威を示さんが爲めに、一日群臣を率ゐて海岸に赴き、海潮の満たざらんことを命令したと謂ふ事である。此の物語は我國に於ける平清盛の目没を歸さんとする話と同一のものであつて、自由にして平等な要求する戦後の民本思想に反抗せんと欲する者は此のカムート王であり、且つ平清盛の愚に倣はんとする者である。

訂正 前號「軍事教練に就て」海軍中將佐藤鐵太郎は同陸軍中將佐藤次郎の誤り

民間療法法の價值

ヤテ毒を消すといふ説明もつく。

以上述べた如く民間療法の中には不可思